

16号岸壁整備へ

宮崎県日向市・細島港



奥の船が着岸している場所が17号岸壁、その手前が16号岸壁、写真一番手前が15号岸壁
(提供：宮崎県北部港湾事務所)

宮崎県日向市の細島港日浜地区国際物流ターミナル(16号岸壁)の整備が決定した。近年急増する林産物取扱量に対応するもの。国内の有効原木輸出港の一つである同港に、背後に広い原木ヤードを持つ岸壁が新たに整備されることで利便性向上につながる。国土交通省の補助事業として採択され、宮崎県が事業主体として実施する。

広いヤード備え、原木輸出増に対応

水深10メートルの16号岸壁(長さ170メートル)と、泊地(3万7000平方メートル)と専用揚子地を整備する。16号岸壁は同7・5メートル、15号岸壁は同13・0メートル、同13・0メートルの17号岸壁(同2000平方メートル)と繋ぎ合わせる。整備後は長さ5800メートルの5800メートルの岸壁となる。23年度までの5カ年で、総事業費は約1億2000万円。16号岸壁の背後では、18年度から先行して原木・チップヤードの整備が始まっている。既に1万6000平方メートルが完成し、最終的に3万1000平方メートルまで拡充される。宮崎県北部港湾事務所によると、細島港の18年1年間の原木輸出量は7万トン、中国などからの引き合いが好調

で、13年比で7倍となった。現在、同港を原木輸出の主力港として活用する(林産物)が、(大坂市)を含め、3事業体が使用しているという。3年後の22年には、18年実績比4倍強となる原木輸出量30万トン到達を目標とする。近年は、宮崎県に隣接する鹿児島県の志布志港(志布志市)をはじめとした県外の港も、木材輸出港として急成長している。そうしたなか宮崎県北部地域の最寄港として、輸送費などを含め低コストでの木材輸出につながる整備が、県内の木材メーカーや荷役会社、日向市などから寄せられていた。

これまで同港は船を係留させる岸壁が不足していた。水深10メートルの岸壁は既にあるが、今回の16号岸壁は広い原木ヤードを備えている点が特徴。着岸した大型船に、一度に多量の木材を積み込める。出荷が可能となる。16号岸壁は中国木材(広島県呉市)日向工場の道路を挟んだ向かい側に位置する。

日刊木材新聞

発行所 日刊木材新聞社
〒135-0041 東京都江東区木場2-4
TEL 03-3820-3500
FAX 03-3820-3519
TEL 03-3820-3511
FAX 03-3820-3518
https://jfpj.jp/
Eメール info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円
©日刊木材新聞社 2019
本誌の無断複製(コピー)や転載は、著作権者の同意を得る必要があります。

木と共に
新時代
木組材ワイフリー
Japan Lumber Reports
電子版

ミルワイフッド
MILFY Wood
3ミリの挽き板は無垢を感じる肌ざわり。
▲ミハマ通商
http://www.mihamatsusho.co.jp